

黒糸威二枚胴具足

埼玉県指定文化財 忍東照宮所有

戦国時代に登場した当世具足を着用した領主や上級武士たちは、合戦場で己の存在を誇示し、活躍を周囲に見せつけるために、自らの具足に装飾性を求めていきました。大勢が入り乱れる合戦場でのアピールや、軍勢を差配する指揮官にとっては、とにかく目立つことが必要だったのです。その中で特に多様なバリエーションが生まれたのが兜です。

兜には頭部を守るヘルメットとしての役割があるため、複数の鉄板を鋲留めして作られています。その中でも、数枚から20枚ほどの鉄板を頭頂部が尖るように突き合わせた形の兜が登場しました。これを突笠形兜といいますが、今回紹介する資料はこの突笠形兜を備えた、松平下総守家初代松平忠明が大坂の陣で着用したとの伝承をもつ当世具足です。



黒糸威二枚胴具足

兜には全体に深い黒漆が塗り込まれています。両脇の角のような棒は角本といい、脇立を差し込んだものです。脇立は現存していませんが、角本の大きさからみて、長大な脇立が立てられたと思われる。胴は長さ5センチメートルほどの本小札という板をすべて朱漆で塗り、黒糸で隙間なくつなぎ合わせた朱漆塗黒糸毛引緘二枚胴です。籠手や太腿を守る佩楯、脛を守る脛当もすべて朱漆で統一されています。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)

松平忠明は武勇をもって知られ、姫路藩主時代には將軍徳川家光から異国船が日本に侵入してきたら西国大名を指揮するようにとの命令を受けていました。実際にその機会は訪れませんでした。漆黒の兜に全身朱色に塗り込められた具足を着用した忠明の姿は、東照神君家康の血を引く大名に相応しいものだったでしょう。

また、現在県指定文化財となっている具足は、県立歴史と民俗の博物館が所蔵する黒糸威最上胴丸具足とこの具足の2領のみです。このことから、まさに埼玉県を代表する具足ともいえるでしょう。

特定非営利活動法人  
にりん舎

ひきこもりや不登校の当事者とその家族に対し、社会参加に関する事業を行い自立した生活を送れるよう支援を行っているのが「特定非営利活動法人にりん舎」です。

同会は、前身の「社会参加サポートネットプランチ」が発展する形で、平成30年10月にNPO法人格を取得。ひきこもりに対する誤解や偏見が今なお根深い今日において、孤立してしまいがちな当事者が一歩でも前へ踏み出し、社会復帰できるよう10人の会員で活動しています。

当事者本人とその家族の悩み、将来の不安などに関する相談に応じる他、スポーツ活動や料理教室など、同じ境遇にある人同士が共感し、経験を共有する機会を提供しています。また、月に1回ほど、家族同士で近況や困り事などを気軽に語り合える家族会を開き、当事者と一緒に暮らす家族にできる工夫や対処方法などを一緒に考えています。

「ひきこもりは誰にでも起こり得ること。そんな彼らに手を差し伸べ、助けになるためにも、より多くの人に私たちの活動を知ってもらいたい」と語ってくれた代表の田口泰大さん。支援する人と当事者およびその家族がまさに車の両輪となり、また原動力となって、自立へ向けて力強く前進していくことでしょう。

【理事長】田口 泰大 【電話番号】080-6570-1734

つながる ひろがる  
みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～25



定期的に行われる集団支援(この回はフットサル)の準備をする会員の皆さん

今月の表紙

11月17日、行田グリーンアリーナ研修室で「第1回ぎょうだ郷土かるた大会」が教育委員会と青少年育成会連絡協議会の主催で行われました。

この大会には20チーム61人が出場し、小学生だけでなく保護者も参加できるとあって、家族のチームもありました。楽しみながらも真剣なまなざしで試合に臨んだ選手たちは、ボーナス得点が加算されるやく札を獲得すると歓声を上げ、チームメイトと喜びを分かち合っていました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジェスト版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい  
植物油インキ  
市報ぎょうだは  
再生紙を  
使用しています